

報告会「私が体感したシリアの春／戦乱の母国を逃れて」に参加して
(参加者の感想集)

「シリアの春」の内戦は、本報告会を計画した平成25年1月から更に激化し、戦乱による犠牲者は、報告会開催日の3月末には、死者は1万人増え7万人に、難民は倍の110万人に達していました。本紙は、報告会の参加者100名の内、ボランティア経験者以外の9名の方から頂いた感想を転記し纏めたものです。

No.	感想
1	戦乱の犠牲者は子供達と女性であり、敗者も勝者もないと戦争の悲惨さを映像で解説しながら、訴えていました。その映像には、涙を誘う場面が多くありました。独裁国家の行く末は、何時の時代にも戦争や内戦になります。
2	一番感じました事は、国際政治は大変冷たいものだなーという事です。油が出ない(地下資源が無い)国には、誰も自らの税金、軍隊を使ってでも他国を助けないという冷たい現実です。 ” 自国は、矢張り自らの力で救わなければ、列強の餌食となる ” という歴史の教えと、キリスト教と回教の宗教の狭間にある国という認識でした。
3	西谷さん、シハブさんの報告は、大変迫力がありました。 国家権力がある程度強大であることは、国民の安全にとって必要ですが、国家権力が独裁的で国民を圧迫するようになったときに、それを倒そうと立ち上がっても圧倒的力がない故に、国民に悲惨を招くジレンマがよく分かりました。 質問の回答で、西谷さんが日本としての中立的な立場を活かして早く停戦させる活動をするのが大事だと話されたのに同感でした。
4	強い権力者による支配と、強い権力者が居なくて弱い勢力の分立している状況とで、どちらが好ましいかはその国の歴史(資源の有無、部族関係、宗教、民度など)に依存するように思え、単純にどのグループが正しいということは難しいのだと思います。ただ、他国との関係もあったりして、内戦状態に陥って解決しないことは気の毒な限りです。
5	日頃は表面的な情報でしか知らない現地の状況ですが、生々しい報告に接し、悲惨さに驚かされました。 それにしても、メディアの限られた情報を乗り越えて、自分の命の危険も顧みずに真実を伝えようと努力する方々がいることに感銘を受けました。開催者の思い・努力も含め、そういった方々の努力が報われて、一日も早くシリアの惨状が解消されるよう祈るばかりです。

6	<p>数万人の自国民を殺傷しながら政権にしがみつくアサド政権、国連安保委常任理事国の拒否権発動に憤を感じます。</p> <p>危険を顧みずに活動続けるフリージャーナリストに敬意を表します。</p> <p>UNHCR 協会、日本赤十字社に貧者の一灯の寄付をする心算です。</p>
7	<p>講演会に参加し、シリアの悲惨な状況を少しでも伺うことが出来貴重な経験でした。</p> <p>わずかな事が引き金になり、どうしようも無い事態に発展していったというのは、よくあるパターンでしょうが、リーダーの資質もさることながら、内在している社会的な不均衡をいつも注意し、是正できるような政治、体制が弱かったのが一つの原因でしょうか。</p> <p>日本は、平常心を失わない限りはOK ですが、お隣の国々の挑発などで国民のストレスがたまると先の戦争のような事も引き起こすので他人事ではないと思います。</p>
8	<p>シリア報告会ですが、とても興味深い内容で、ひきこまれました。特に映像でシリアの現状を見ることができたので、今まで小さな新聞記事で見るだけだった遠い国の出来事について具体的なイメージを持つことができ、また、シリアのことをもっと知りたいと思いました。</p> <p>また、色々な立場の方からの報告を聞いたのも興味深く、2時間半が短く感じられました。参加者の数も多く、皆さんとても熱心に視聴されていて、会場の雰囲気も良かったと思います。</p> <p>マスコミ報道もあまりない中でシリアのことについて知ることのできる貴重な機会だったと思います。</p>
9	<p>シリアの実態について日本では正しく報道されていないことがよくわかりました。</p> <p>同じ国民を女子供の区別なく虐殺できる、ということは日本ではまったく考えられないことであり、大変ショックでした。</p> <p>最後の子供のビデオにも衝撃を受けました。肉親が殺されれば復讐したくなるという気持ちもわかりますが、その連鎖が早く絶たれるよう内戦終結を切望します。</p> <p>今回は貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。</p> <p>私も自分に出来ることを探して、協力していきたいと思います。</p>

平成 25 年 4 月 5 日
シリア国際交流活動 0V 会